

【研究会名】

都市モデルを用いた都市・交通政策評価
に関する研究会

【研究会の目的】

本研究会は、これまで都市構造と交通の相互関係の基礎的研究、分析モデルの開発、そのモデルを用いた都市・交通政策評価について学会等にて積み重ねられてきた研究成果を今一度整理し、そして実務における適用を念頭においた情報発信を行うことを目的とするものである。



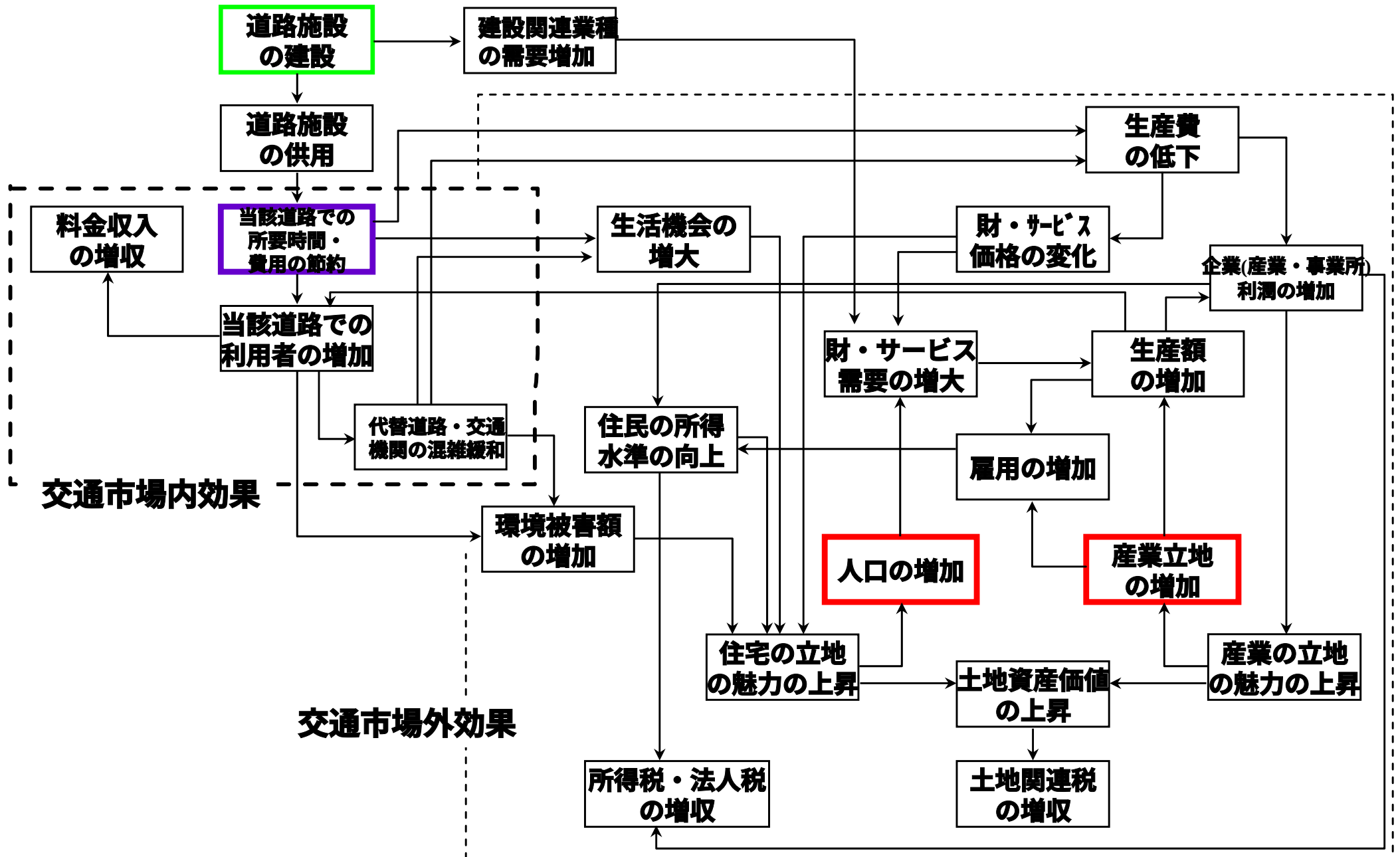
土木計画学研究発表会(春大会)：企画セッション
「土地利用モデルの再考」を3回実施

【本日のスケジュール】

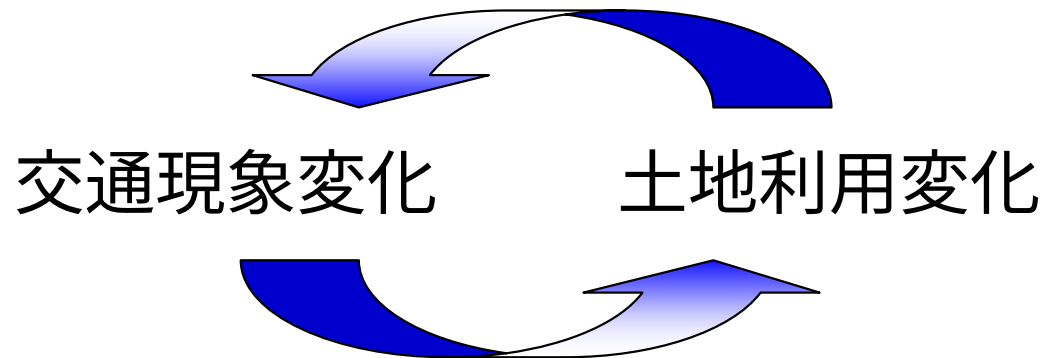
- ・ 研究会の趣旨と目的
- ・ 「世界における都市モデルの活用状況」
(武蔵工業大学教授 宮本和明)
- ・ 「モデルによる政策評価の意義」
(東京大学教授 上田孝行)
- ・ 「都市モデルの分析対象と都市・交通政策評価における役割」
(山梨大学准教授 武藤慎一)
- ・ 「マイクロシミュレーションモデルの活用と課題」
(ドーコン 杉木直)
- ・ 「均衡モデルの活用と課題」
(山梨大学准教授 武藤慎一)
- ・ 全体討議

都市モデルの分析対象と 都市・交通政策評価における役割

山梨大学 武藤慎一

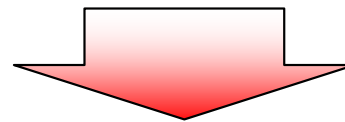


そもそも土地利用交通モデルは. . . .



→交通整備の土地利用変化まで含めた
分析を目的とした.

都市モデルの分析対象は？



調査に基づく

① 交通需要予測 (交通ネットワーク分析, PT分析) との融合
スタンダードな交通政策の評価

誘発交通 (交通整備により, 交通発生量, 目的地選択, 機関選択
変化等によって新たに発生する交通)

開発交通 (主体の立地変化によって新たに発生する交通) を考慮して.

② 都市計画 (マスタープラン策定) への利用

立地規制・コントロールの問題：大規模小売店舗立地法
中心市街地活性化

少子高齢社会における今後の都市：公共サービス提供のあり方

コンパクトシティ型の都市設計

低環境負荷都市の設計

⇒ 交通利用への影響
の把握

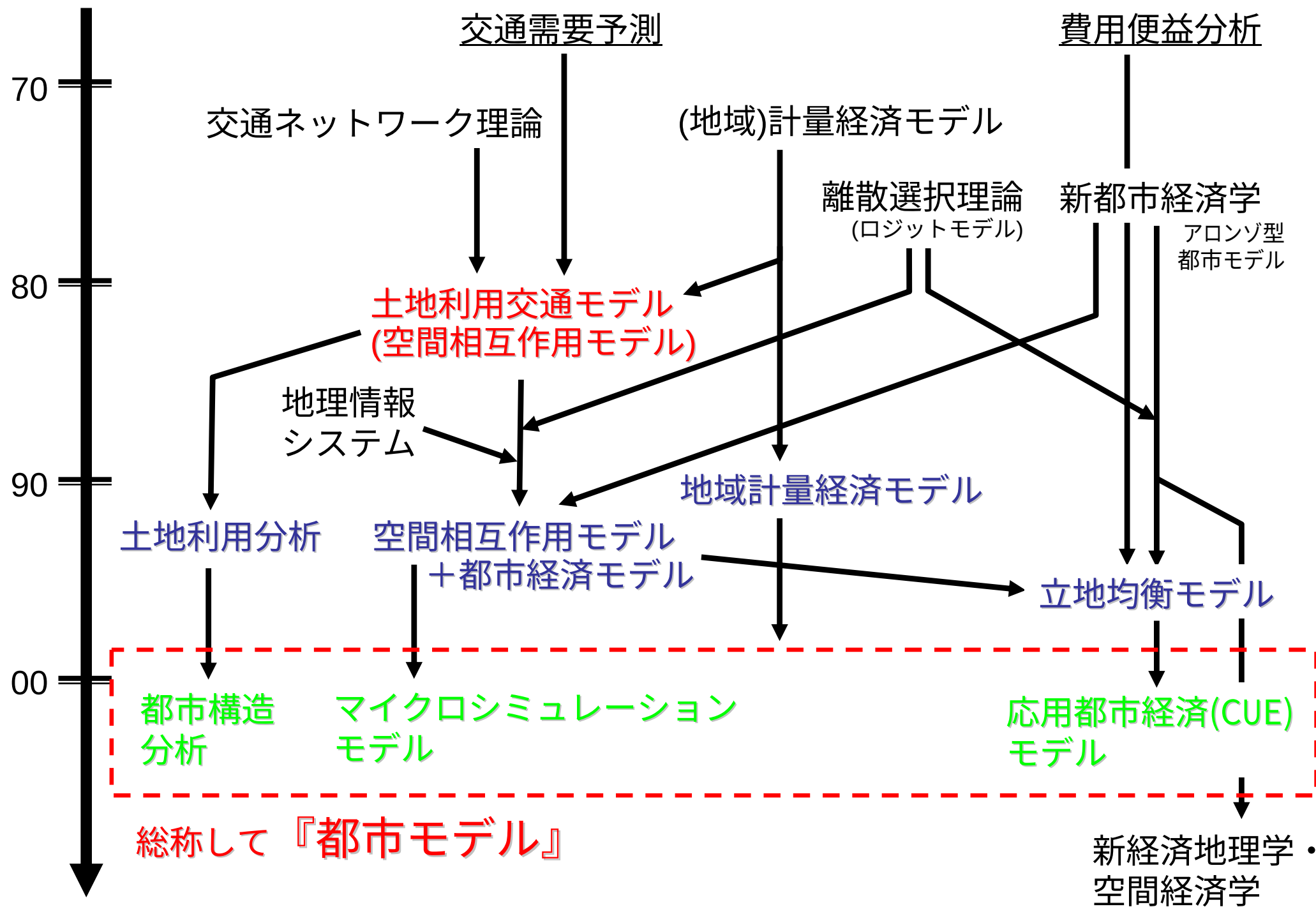
③ 交通整備の産業立地への影響分析

環状道路整備 ⇒ 産業立地は？

道路整備により、産業が立地する魅力は
どの程度上昇するか？

空港・港湾のアクセス道路整備 ⇒ 産業立地は？

物流面での効果。
それにより産業立地が進む可能性がある



本研究会で扱う『都市モデル』

● 都市の構造・空間の分析モデル

- ・対象範囲は都市圏域
 - ・都市構造, 都市の空間的分析を行っている
- 内 分布

● 実用モデルである

- ・実地域での適用事例がある, あるいは十分に適用可能である

● 交通モデル・分析を内包している

- ・交通需要予測(四段階推定法)との結合が可能
- ・PT調査との結合が可能

・都市構造分析モデル
 ・都市シミュレーションモデル
 ・(応用)都市経済モデル
 ⋮

} ⇒ 都市モデル

「都市モデル」研究の現状

- 学会等, アカデミックな研究蓄積はかなりなされてきた
- 実証分析も進められている



実務でも用いると有効である！

- 実務への適用にあたっての障害が何か？

本研究会の目的 (アカデミックな研究内容の紹介, 整理とともに)

- 1) 実務への普及の障害明らかとする.
- 2) その障害を取り除くための方法を検討.
 - ・モデル構造の理解困難性→結果が何に使えるのか？
 - ・データセットの問題／実際の計算の手間の見直し
 - ・実務的な問題意識とモデル分析との差

今後の研究会のスケジュール(予定)

2008年3月(第一回):研究会の目的と都市モデル研究の現状紹介

5月(第二回)

宮本和明(武蔵工業大学):世界における実用都市モデルの実態

杉木直(ドーコン):マイクロシミュレーション居住立地予測モデルの構築と適用

7月(第三回)

堤盛人(筑波大学):TBA

山崎清(価値総合研究所):応用都市経済モデルによる都市政策の評価

8月(第四回)

森本章倫(宇都宮大学):都市計画から見た課題と展開

紀伊雅敦(日本自動車研究所):TBA

9月(第五回)

佐々木邦明(山梨大学):TBA

佐藤徹治(千葉工業大学):都市モデル適用の注意点と時系列評価の方法(仮)

11月(第六回) 研究会の成果報告会

【話題提供いただける方も募集】